

なぜ学ぶのか

期末テストが今日から始まりました。テスト勉強の大変さから、「なんで勉強しなきゃいけないの?」「勉強してなんの役にたつの?」と思っている人もいることでしょう。

「なぜ学ぶのか」の問いに対して、皆さんなら何と答えますか。また、周りの大人たちは今までにどう答えていましたか。

「義務教育だから」、「将来のため」など様々な答えがあるようです。

山口先生が2階水飲み場に花を飾ってくれています。先週は紫色の花が飾ってありました。私は葉の形から菊ではないかと、山口先生と尋ねたところ、「アスターですよ」という返答でした。

アスターについて調べると、アスターはギリシャ語・ラテン語で星を意味し、和名はエゾギクと呼ばれるキク科の植物、花の色は赤・ピンク・白・青・紫などがあり、花の色によって花言葉が違ってくるようになりました。ちなみに、紫色の花言葉は「恋の勝利」「私の愛はあなたより深い」になります。

「天才」と言われた理論物理学者アインシュタインは『常識』は18歳までに習得する偏見のコレクションである。」と言っています。これは、私たちは目の前にある物事や出来事を見たときに知っていること(既成概念)に基づいて理解しようとしています。つまり、起きたこと・未知のものに対して「見たいように見て、聞きたいように聞いてしまう」危険性をもっています。そうならないために、様々な分野の学問を学ぶことで様々な「視点」をもてるようになり、「こういうものだ」と決めつけずに物事を多様に見ることができるようになります。

私は「菊の葉に形が似ているから菊だ」と決めつけていました。まさに、知っていることに基づいて判断してしまっただけです。「アスター」と知ったことで、アスターの花の色の種類、花の色によって花言葉が変わるということを知り、花についての新たな視点も持てました。次に花の品種を判断するとき、その視点も加えて見ることが出来ます。

学ぶことで多くの視点をもつことができ、物事を決めつけることなく自由に考えることができます。以上のことから、「なぜ学ぶのか」の問いの答えとして「自由になるために学ぶ」という視点を加えてもいいのではないのでしょうか。



考える

ハインリッヒの法則というものがあります。これは一件の大きな事故・災害の裏には、29件の軽微な事故・災害、そして300件のヒヤリ・ハット（事故には至らなかったもののヒヤリとした、ハットとした事例）があるとされ、重大災害の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していくことが必要であるというものになります。

最近の学校生活の状況として、「よく考えれば、分かることなのに」と思うことがよくあります。例えば、授業中の私語、休み時間の過ごし方、トイレのスリッパがそろえられていないなどが挙げられます。

よく考えることができなければ、やがて何か大きな問題につながるのではないかと危機感を私はもっています。

「このままでいいのか?」「どうあるべきなのか」、今が考え時です。



(ハインリッヒの法則)